



高木 武志
日本共産党
(73分)

福山北産業団地第Ⅱ期事業は

問 市長は、2023年の分譲開始の予定で、総事業費約75億円の福山北産業団地第Ⅱ期事業を進めることを表明した。東京オリンピック終了後は景気が鈍化するとも言われ、分譲見込みに大きな不安がある。また市内でも分譲中の団地がある中

関係市町との調整もできておらず、さらなる自治体間競争に拍車がかかっているのではないかと。本市の市債増高を招く当事業を行わないことを求める。

答 福山北産業団地は、労働力の確保や交通アクセスの利便性から立地に優位性があると判断した。本事業は、本格的な人口減少社会を見据え企業が立地することで雇用機会の拡大につながり、地域経済への波及効果が期待されるもので、本市が持続的発展を遂げるための重要かつ喫緊の施策と考える。



川崎 卓志
市民連合
(70分)

手城川流域の浸水対策は

問 手城川流域浸水対策会議の結果と対策の具体内容は。

答 これまでの対策会議でハード、ソフトの浸水対策を検討した結果、今までの取り組みに加え新たな取り組みを次期出水期までの対策と中長期的な取り組み方針に整理し、県、市、土地改良区が連

携して取り組むこととしている。次期出水期までの取り組みとして本市は、内水氾濫シミュレーション等を実施するほか、雨水貯留施設の堆積土除去や流出抑制施設の設置に取り組む。県は、春日池へ水位計を、手城川中流部へ監視カメラをそれぞれ設置し、河川状況の監視体制を強化する。県と市においては、それぞれの管理する雨水貯留施設やため池の低水位管理などに取り組む。

また、中長期的な取り組み方針として雨水貯留施設の整備等、より効果的な浸水対策を検討する。



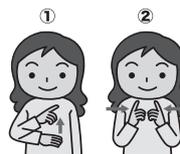
西本 章
市民連合
(75分)

手話言語条例の制定は

問 こころをつなぐ手話言語条例案に「こころをつなぐ」と表現した思いと条例案の特徴は。

答 過去には、手話は「手まね」と言われたり「ろう学校」でも手話を使うことが禁止されていた時代もあり、ろう者の方が歩んでこられた過去に思いを致し、手話が

心と心をつなげ、共生社会を実現したいという思いを込めている。条例案の特徴は、思いやり、優しさ、助け合いの心「ローズマインド」をもって、手話への理解を広め、共生する地域社会の実現をめざすことを前文にうたっていること。また、市が推進する施策として、ろう者の方々の強い願いである学校教育における手話の取り組みと災害時における情報提供などの対応を掲げているところである。



はじめまして

通学路の安全向上に向けた実証実験後の交通安全対策は

問 大津野小学校地区の市道で通行車両の速度を抑制し、児童が安全に通学できるようにする実験が行われている。

答 実証実験の結果が有効の場合市全体の交通安全対策を今後どのように進めていくのか。



大塚 忠司
新政クラブ
(70分)

答 今回設置しているハンプやポールは、実証実験のためレンタルにより設置したもので、実験後には撤去する予定である。今後、新たな地区においても、大津野小学校地区での取り組みを参考に、交通安全対策を進めるとともに、市内全域の通学路安全対策事業を実施する際にも参考にしながら取り組む。



実証実験のため設置されたハンプとポール

※ハンプ：自動車を減速させて歩行者や自転車の安全な通行の確保を目的として、道路を凸型に舗装し、通過する車両を一時的に押し上げるもので、事前にこれを見たドライバーが速度を落とすことを狙っている。